



活動だより

雫石町身体障害者福祉協会 軽スポーツ交流会

機能回復療法部副部長 佐藤 英雄



去る10月21日雫石町総合福祉センターにおいて、雫石町身体障害者福祉協会主催の軽スポーツ交流会が行われました。

雫石町のシルリハ指導者会「リハしずくの会」は、この交流会の中でシルバーリハビリ体操をやって欲しいとの依頼を受け、澤口秀志さんと田中律子さんの2名が体操指導者として参加されました。

日頃は地域の高齢者を対象に体操教室を行うシルリハ指導者にとって、身体障害者の方々への体操指導は未知のことであり、今回当センター理学療法士の私が「見守り役」として伺いました。

当日は計17名の参加者が集まり、顔なじみ同士和気あいあいと談笑する中、澤口さんと田中さんのコンビによるシルバーリハビリ体操がスタートしました。一つ一つの体操を丁寧に説明するお二人の息の合った指導に、参加者は集中して身体を動かし

ていました。片麻痺の方のためにアレンジされた体操のやり方も用意され、全ての参加者が満足できる体操指導でした。

「せっかくだから」とのお声をいただき、見守り役の私も「猿まね体操」を飛び入りで行い、みんなで楽しく身体を動かして体操を終了しました。



シルバーリハビリ体操は、もともと茨城県立健康プラザの大田仁史先生が、脳卒中片麻痺の後遺症の方々のために開発した体操であり、障害を持った方でも安全に楽しく行える体操であると改めて実感しました。今回を機に、シルバーリハビリ体操が幅広い方々に広がり、認められ、愛されて行くことを期待しています。





母校を利活用!

橋場の文化祭

旧橋場小学校さ
おでんせ~!!



作業療法士 小志戸前 奈那

●● 橋場小学校の利活用の経過 ●●

私の母校である、「旧雫石町立橋場小学校」は、雫石町の西端にある少人数の小さな学校でした。私が通っていた時は、全校生徒が23名で、同級生は私を含めて4名。全校生徒皆が学年関係なく仲が良く、もちろん地域住民の方とのつながりも深かったことを覚えています。

そんな橋場小学校が平成30年に閉校となり、御明神小学校と統合になりました。雫石町役場の地域づくり推進課を中心に、旧橋場小学校利活用に関する地域懇談会が、閉校後の平成30年度から行われていました。地域住民へのアンケートによる利活用の方法を基に、橋場地区の地域住民の有志で利活用の活動指針について話し合いを繰り返しました。

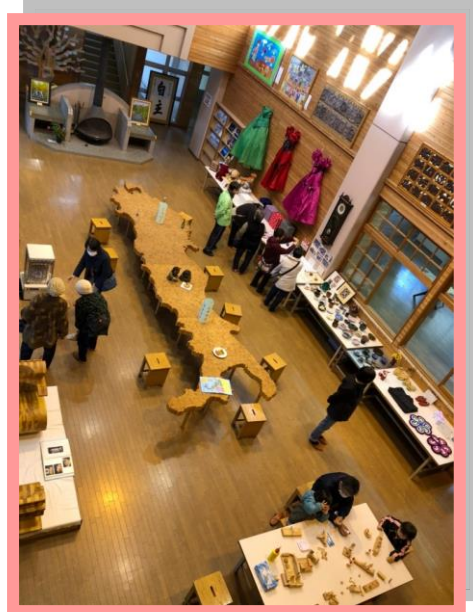
今年度は実際に活動を開始し、地域住民の反応を見ながら地域住民主体で利活用を進めて行けるかどうかを決定していくことになりました。地域懇談会では「木工教室」や「ふれあいサロン」「防災訓練」の実施のアイデアを出し、その中でもまずは、地域住民の方に橋場小学校に足を運んでもらい、現状を見てもらうことを目的に『橋場の文化祭』を行ってみることになりました。

●● 橋場の文化祭の実施 ●●

橋場の文化祭は令和2年11月14日、15日の2日間行われ、橋場地区在住の木工作家の方の作品や、橋場地区の住民の編み物や自慢の写真などを展示。また、昔の橋場小学校の行事をおさめたビデオの上映などを行い、橋場小学校の思い出や、橋場地区の皆さんを深く知る機会を作りました。

初めは作品が集まるか不安な部分がありましたが、たくさんの作品が集まり、小学校がパツと華やかに彩られました。文化祭の実施にあたっては、新聞や広報、テレビ、ラジオなど多方面からの宣伝もあり、2日間の開催で延101人の方が来場してくださいました。

作品やビデオ上映を見ながら久しぶりの再会を喜びつつ、思い出話をしている地域住民の皆さんの姿がとても印象的でした。



木工作家さんの作品
「東北とイタリアのテーブル」



木工体験に夢中な子供たち





昭和三十七年頃の
記録ビデオを上映



●● 活動に参加してみての感想 ●●

スタッフとして関わってみて、地域住民の方の橋場小学校への思い入れが強いことを感じられ、ぜひ今後も地域の拠点として活用して行きたいと思いました。また、以前に旧橋場小学校で「ふれあいサロン」を開催した際にはシルバーリハビリ体操も行っていただき、養成事業に関わらせていただいている身としては、自分の地元の方と自身の仕事がつながった気持ちになり、とても感慨深かったです。

これからも、地域の方の通いの場を構築して行けるように、一地域住民として利活用に向けた活動に関わって行きたいと思います。



11月11日にふれあいサロンで実施された
シルバーリハビリ体操の様子



んだんだ！

足腰鍛えて、ま
あだ小学校さ行
ぐべね～！



シリーズ 知っ得と便利

新型コロナウイルス感染症対策の 6 か条

院内感染管理者 川村 将史

新型コロナウイルスの感染ルートは3つあります。①ウイルスが「飛ぶ」②そしてウイルスに「触る」③そのウイルスが「入る」です。この3つの条件が成立することで感染します。

頭では分かっている、実践するのはなかなか難しいです。でも、やらなければ新型コロナウイルスに感染してしまいます。

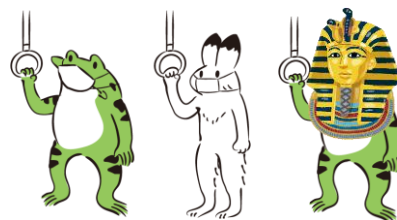
そこで、たったの6つの日常生活の行動で新型コロナウイルスに感染しない、感染させないように出来ます。たった6つの行動を自覚すれば、大切な人を新型コロナウイルスの感染から守ることが出来ます。自分自身も守ることが出来ます。

一人一人がお互いに感染対策を行い、打倒！「新型コロナウイルス感染症」を成し遂げましょう！



新型コロナウイルスに感染しない させない『6か条』

その① マスクをする
ウイルスを「飛ばさない」



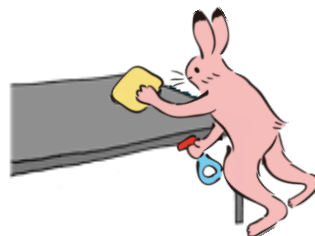
その② 何かをする前後、何かに触れた前後に
手指消毒をする
ウイルスに「触らない」



その③ マスクを外したら話をしない
ウイルスを「飛ばさない」「入れない」



その④ 食事をする前後でテーブルを拭く
ウイルスに「触らない」



その⑤ マスクをしていない状態で誰かのご飯を食べる場合
は、食事中的会話はいらない
ウイルスを「飛ばさない」「入れない」



その⑥ 家族の行動や一緒にご飯を食べる相手の2週間
前からの行動を確認する
ウイルスを「入れない」



<年4回発行>

発行●いわてリハビリテーションセンター 所在地●〒020-0503 岩手県岩手郡雫石町七ツ森16番地243

TEL019-692-5800 FAX019-692-5807

Eメール●info@irc.or.jp インターネットホームページ●<http://www.irc.or.jp>